

南無阿彌陀佛

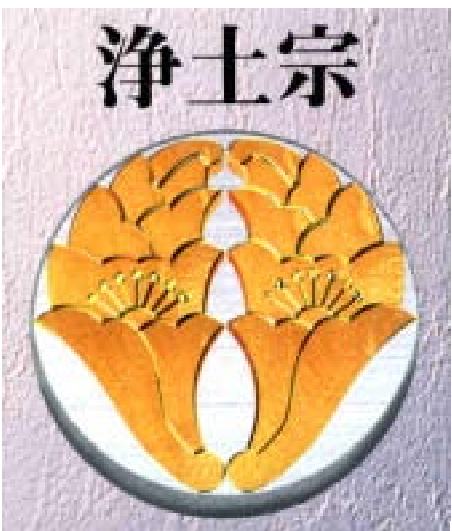
法然上人御真筆

還り来たりて

度し給う

訓読・浄土宗の法事

摄取山 念佛寺



青字・・・偈題、経文題

緑字・・・導師が発声します

黒字・・・みなさんと共にお読みしましょう

▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲
香 偈こうげ

願ねがわくは我が身み浄きよきこと香こう炉ろの如ごとく▲

願ねがわくは我が心こころ知ち恵えの火ひの如ごとく

念ねん念ねんに戒かい定じょうの香こうを焚たきまつりて

十じっ方ぽう三さん世ぜの佛ほとけに

供く養ようしたてまつる



三 宝 礼さんぼうらい

一 心いっしんに敬うやまつて▲

十じっ方ぽう法ほう界かいに常じょう住じゅうする佛ほとけを礼らいしたてまつる

一 心いっしんに敬うやまつて▲

十じっ方ぽう法ほう界かいに常じょう住じゅうする法ほうを礼らいしたてまつる

一 心いっしんに敬うやまつて▲

十じっ方ぽう法ほう界かいに常じょう住じゅうする僧そうを礼らいしたてまつる

三 奉 請さんぶじよう

請しょうじ奉たてまつる彌みだ陀だ世せ尊そん 道どう場じょうにい入いらせたまえ

請しょうじ奉たてまつる釈しゃ迦か如に来よらい 道どう場じょうにい入いらせたまえ

請しょうじ奉たてまつる十じつ方ぽう如に来よらい 道どう場じょうにい入いらせたまえ

懺さん悔げ偈げ

▲我われ昔むかしより造つくる所ところの諸もろもろの悪あく業ごうは▲

皆みな無む始しの貪とん瞋じん痴ちによる

身しん語ご意いより生しょうずる所ところなり

一いっ切さい我われ今いま皆みな懺さん悔げしたたてまつる

同どう唱しょう十じゅう念ねん

南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ

南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ

南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ

表へい白はく

謹つつしみ敬うやつて西さい方ほう願がん王のう阿あ弥み陀だ如に来よらいの宝ほう前ぜんにもう白はくす。現げん前ぜんの弟で子し等とう、

利り物もつ遍へん增ぞうの鴻こう益やくを讚たたえ、称しょう名みやう念ねん佛ぶつの正しょう業ぎやうを修しゆし、以もつて

広こう大だい慈じ恩おんの万まん一いつにむく酬たてまつい奉らんと欲ほつす。

よつて時に今、〇〇靈位の冥福を薦めんが為に、〇回忌の法会を
興建し、共に往生浄土の願行を啓修し奉る。伏して請い
願わくは、弥陀慈尊、悲愍を垂れて摂取護念し給え。

開經偈

無上甚深微妙の法は

百千万劫にも遭い遇うこと難し

我れ今見聞し受持することを得たり

願わくは如来の眞実義を解したてまつらん



佛の説きたまえる

観無量寿経第九眞身観文

佛、阿難および韋提希に告げたまわく。この想成じ

おわりなば、次にまさにさらに

無量寿佛の身想光明を觀ずべし。

阿難まさしにしるべし。無量寿佛の身は、

百千万億の夜摩天の閻浮檀金の色の

佛身の高さ、六十万億



那由他恒河沙由旬なり。眉間の白毫は右に旋って婉轉せり。五須弥山のごとし。佛眼は四大海水のごとし。

青白分明なり。身の諸もろの毛孔より光明を演出す

ること、須弥山のごとし。かの佛の円光

は、百億三千大千世界のごとし。円光の

中において、百万億那由他恒河沙の化佛あ

り。一一の化佛に、また衆多無数の化菩薩あつて、もつて

侍者とせり。無量寿佛に八万四千の相あり。一一の相に、

各おの八万四千の隨形好あり。一一の好に、また

八万四千の光明あり。一一の光明、徧く十方世界を

照らして、念佛の衆生を攝取して捨てたまわず。その

光明相好および化佛、具に説くべからず。ただまさに

憶想して、心眼をして見せしむべし。この事を見る者は、

すなわち十方一切の諸佛を見たてまつる。諸佛を見たてま

つるをもつての故に、念佛三昧と名づく。この觀を作すを

ば、一切の佛身を觀ずと名づく。佛身を觀ずるをもつての



故に、また佛心を見る。佛心とは、大慈悲これなり。
無縁の慈をもつて、諸もろの衆生を撰したまう。この
観を作す者は、身を他世に捨てて、諸佛の前に生じて
無生忍を得。この故に智者まさに心を繋けて、諦かに
無量寿佛を觀ずべし。無量寿佛
を觀ぜん者は、一の相好より入
れ。ただ眉間の白毫を觀じて、
極めて明了ならしめよ。眉間



の白毫を見たてまつる者は、八万四千の相好、自然にま
さに現ずべし。無量寿佛を見たてまつる者は、すなわち
十方無量の諸佛を見たてまつる。無量の諸佛を見ることを
得るが故に、諸佛現前に授記したまう。これを徧く
一切の色身を觀ずる想とす。第九の觀と名づく。この觀を
作すをば、名づけて正觀とす。もし他觀するをば、名づ
けて邪觀とす。

回向文

願わくは、上來修する所の善品を以て、
皆、悉く回向す。(靈名) 追善増上菩提

一切精靈偈

▲一切の精靈極樂に生じ、▲

上品の蓮の台に正覺を成ず。

菩提の行願は不退轉にして、

三有および法界を引導す。



同唱十念

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

元祖大師法然上人御遺訓 一枚起請文

唐土我朝に、もろもろの智者達の沙汰し申さるる、
観念の念にもあらず。又学問をして念の心を悟り
て申す念佛にもあらず。ただ往生極樂のためには、

南無阿彌陀佛と申して、疑ひなく往生するぞと
思ひ取りて申す外には、別の仔細候はず。但し
三心四修と申すことの候は、皆決定して南無
阿彌陀佛にて往生するぞと、思ふうちにこもり



法然上人像 東京・増上寺蔵

候なり。この外に奥
深きことを存ぜば、
二尊のあはれみにはづれ、
一本願にもれ候べし。

念佛を信ぜん人は、たとひ一代の法をよくよく学す
とも、一文不知の愚鈍の身になして、尼入道の無
智の輩に同うして、智者のふるまひをせずして、
ただ一向に念佛すべし。
為証以両手印。

浄土宗の安心起行この一紙に至極せり。源空が
所存、この外に全く別義を存ぜず。滅後の邪義を
防がんがために所存を記し畢。

建 曆 二 年 正 月 二 十 三 日

大 師 在 御 判

撰 益 文



阿 弥 陀 三 尊 像 · 国 宝 · 兵 庫 淨 土 寺

如 来 の 光 明 は

徧 く 十 方 世 界 を

照 ら し て、

念 佛 の 衆 生 を

撰 取 し て

捨 て た ま わ ず。

念 佛 一 会

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛、

南 無 阿 弥 陀 佛。

別 回 向

奉 酬 大 悲 願 王 阿 弥 陀 佛、

發 遣 教 主 釈 迦 牟 尼 佛、

發 遣 教 主 釈 迦 牟 尼 佛、

一切三寶廣大慈恩。

十念

又願わくは、高祖光明善導大師、

元祖円光明照和順大師

上酬慈恩。

十念

又願わくは上來修する所の大乘妙典、

称揚称名の功德を以て回向す。

(靈名) 追善増上菩提。 十念

又願わくは(何々家)先祖代々

一切先亡諸精靈追福増進菩提。 十念



総回向偈

願わくは此の功德を以て平等一切に施し

同じく菩提心を発して安楽国に往生せん

同唱十念

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 ▲▲▲

総願偈

▲しゅじょう 衆生は無辺なれども誓って度せんことを願う▲

ぼんのう 煩惱は無辺なれども誓って断ぜんことを願う

ほうもん 法門は無尽なれども誓って知らんことを願う

むじょう 無上の菩提なれども誓って証せんことを願う

じたほうかい 自他法界は利益を同うし

とも 共に極楽に生じて佛道を成ぜん

さんしゅうらい 三唱礼



▲なむあみだぶつ 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

なむあみだぶつ 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

なむあみだぶつ 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛▲

そうぶつげ 総佛偈

▲こ 請うらくは佛、縁に随って本国に還りたまえ▲

あまね 普く香華を散じ 心に佛を送りたてまつる

ねが 願わくは佛の慈心 遙かに護念したまえ

どうしよう 同生 相勧む 尽く来たるべし

低声十念



平成十（一九九八）年十月二日 初版 第三刷

浄土宗 摄取山 念佛寺

第二十二世・琇譽寛一